

平成30年度 第4回能代市中心市街地活性化推進協議会

会 議 録

日 時：平成31年2月22日（金）

午後7時～

場 所：プラザ都 カトレアの間

協議事項

（1）市への提言書について（資料1、2）

提言書（案）を、阿部副会長が説明。

- ・分科会及び協議会での議論を踏まえ、全体戦略分科会で案を取りまとめた。
- ・協議会から市への提言だが、個別の事業についての意見ではなく、計画全体を進めて行くにあたり重要な「視点」を提示するもの。
- ・文章に出てくるフレーズは、委員の皆さんの言葉をできるだけそのまま生かした

協議・質疑

委員：人口が減っていくなかで、中心市街地活性化というのはただ事ではない。これから先、さらに人口が減少し高齢化が進む、空き家が増えるという状況のなかで時代の流れを見ながら年毎に変化していく必要があると感じる。

協議会で報告があったが、歩行者通行量はそれほど減っていない。子どもたちは少ないけども高齢者がいて何年間かバランスがとれているのかなと感じている。

委員：この1年は皆さんすごく頑張ったと思う。市役所の方たちもずいぶん頑張ってくれた。この前の分科会で、分科会は1つではなくもう少し増やしたらどうかということが出ていましたけれども大変良いことだと思う。とにかくまちの中の空気が流れないと人も流れませんので、皆さん色々と動き回ることが大切と思う。

委員：色々と取り組みのプランはあるが、どうやってそのプランを発信するか、どういう媒体を使ってどういうことをやるかがなかなか伝わりにくい、これが最大の悩みである。それからもう1つ、もう少し能代の歴史を掘り下げて外部から人を呼びこむことも必要であると感じている。

委員：協議の中で、皆さんの様々な取り組みや、各種のデータ検証結果等、色々見させていただいたが、ターゲットが絞られていないのではないかと感じている。

漠然と活性化というが、どの層に対して訴えたいのか、誰に対してやるのか、まずそこをある程度明確にしたほうが、目標がより見えてくるのではないかと感じる。それで終わるのではなくてそれを取っ掛かりにして広げていくようなことがよいのかなと思う。

委員：市民プラザが閉鎖するということが傾聴ボランティアサロン等の活動の場はどうなるのか。

事務局：今の市民プラザの運営は、まちづくり合同会社が行っているが、3月いっぱいまで活動を一区切りすることになった。

市でも新年度以降の運営準備をしているところだが、従来やっている事業はそのまま継続する条件で次の受注者を探すことにしている。傾聴ボランティアサロン等の活動の場は確保していきたい。

ただ、どうしても入札の手続などで3ヶ月市民プラザを休止せざるを得ない。その間の活動場所も確保できるよう調整している。

市長への提言書提出について

- ・福田会長が、市長へ提言書を渡した。

